

T O Y O K N I F E C O . , L T D .



東洋刃物株式會社

2018年3月期 決算説明会

2018年6月11日

証券コード: 5964

1. 当社について
2. 2018年3月期 業績概要
3. 2019年3月期 業績予想
4. 中期経営計画の進捗
5. 株主還元に対する基本方針

当社について

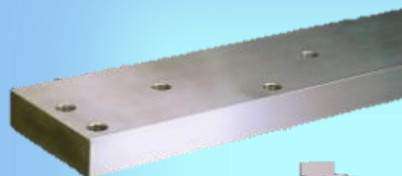
●設 立	1925年8月9日
●本社所在地	宮城県富谷市富谷日渡34番地11
●代 表 者	代表取締役社長 清野 芳彰
●事 業 内 容	情報産業用刃物、鉄鋼用刃物、製紙パルプ用刃物、製本用刃物、合板用刃物、その他の工業用機械刃物、産業用機械・部品の製造・販売及び緑化造園
●主要取引先	新日鐵住金、JFEスチール、THK、三井精機工業、日東電工、タツモ
●従 業 員	連結:383人(内、臨時従業員 123 人) 単体:279人(内、臨時従業員89人)
●上場取引所	東京証券取引所(第二部)
●発行済株式数	1,577,300 株
●主 な 株 主	地域中核企業活性化投資事業有限責任組合、七十七銀行、常陽銀行、自社従業員持株会、みずほ信託銀行、仙台ビルディング、大同特殊鋼、仙台放送、日本高周波鋼業、JFEスチール

※2018年3月末現在

- 1925年 東北大学附属金属材料研究所所長・本多光太郎博士の提唱により設立。
- 1961年 東京証券取引所市場第二部上場。
- 2011年 東日本大震災により本社・多賀城工場が被災。
- 2012年 多賀城事業所(旧・多賀城工場)で一部生産を再開。
- 2016年 地域中核企業活性化ファンドと資本業務提携契約を締結。



産業用機械及び部品

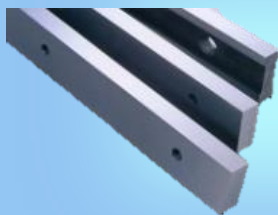


スライドウェイ

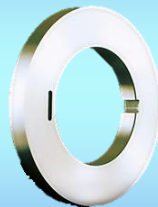


刃付平面研削盤

鉄鋼用刃物類



シャープブレード



サイドトリマーナイフ

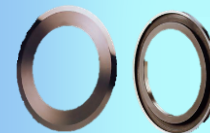


メカニカルエキスパンドダイス

緑化造園
8%

92%
工業用刃物類及び
産業用機械・部品

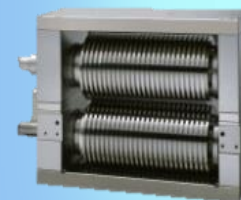
情報産業用刃物類



スリッターナイフ
(ゲーベルタイプ)



高精度移動式ホルダー
(特許権3件、意匠権2件取得)



スリッティングユニット



コーティングダイ

製紙パルプ・食品用刃物



ダンボールカッター



ミートスライサー

【韓国】

● ■ 東洋鋼業株式会社
(持分法適用関連会社)
韓国市場向け製造・販売

● : 生産拠点

■ : 販売拠点

【中国】

■ 上海東優刃物国際貿易有限公司
(連結子会社)
中国市場向け販売

【国内拠点】

● 生産拠点
富谷(宮城県)
多賀城(宮城県)

■ 販売拠点
仙台、東京、名古屋
大阪、広島

【マレーシア】

■ クアラルンプール支店、シブ事務所
東南アジア・オセアニア地域市場向け販売

【連結子会社】

株式会社トオハ
熱研工業株式会社
東洋緑化株式会社

2018年3月期 業績概要

- 売上高 ⇒ 主力の情報産業用刃物等の伸長で、前期比6.4%増の5,293百万円。
- 営業利益 ⇒ 高付加価値製品、高精度精密製品に注力した事業展開により、前期比6.7%増の312百万円。
- 経常利益 ⇒ シンジケートローン関連費用の減少により、前期比25.0%増の259百万円。

(単位:百万円)

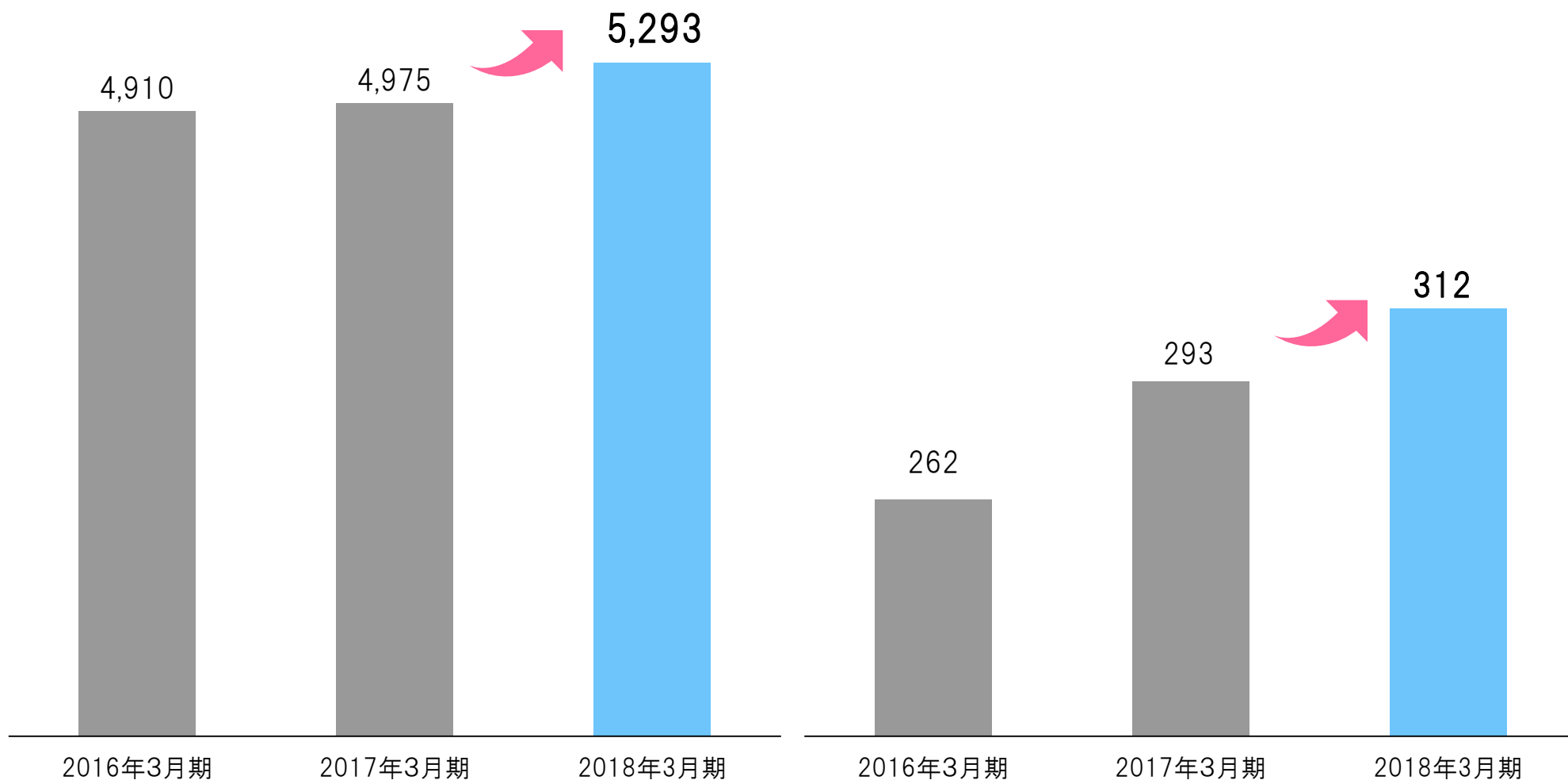
	2017年3月期		2018年3月期		前期比		計画比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率	期初計画	達成率
売上高	4,975	100.0%	5,293	100.0%	317	↑ 6.4%	5,050	104.8%
営業利益	293	5.9%	312	5.9%	19	↑ 6.7%	240	130.3%
経常利益	207	4.2%	259	4.9%	52	↑ 25.0%	200	130.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	265	5.3%	246	4.7%	△ 19	△ 7.3%	170	145.0%

- 高付加価値製品への注力により、売上高、営業利益ともに好調に推移。

売上高

営業利益

(単位:百万円)



機械刃物及び機械・部品

- 売上高 ⇒ 主力の情報産業用刃物および製紙パルプ用が伸長し、前期比9.8%増。
- セグメント利益 ⇒ 主力の情報産業用刃物がIT関連業種の旺盛な需要を取り込み、前期比15.1%増。

緑化造園

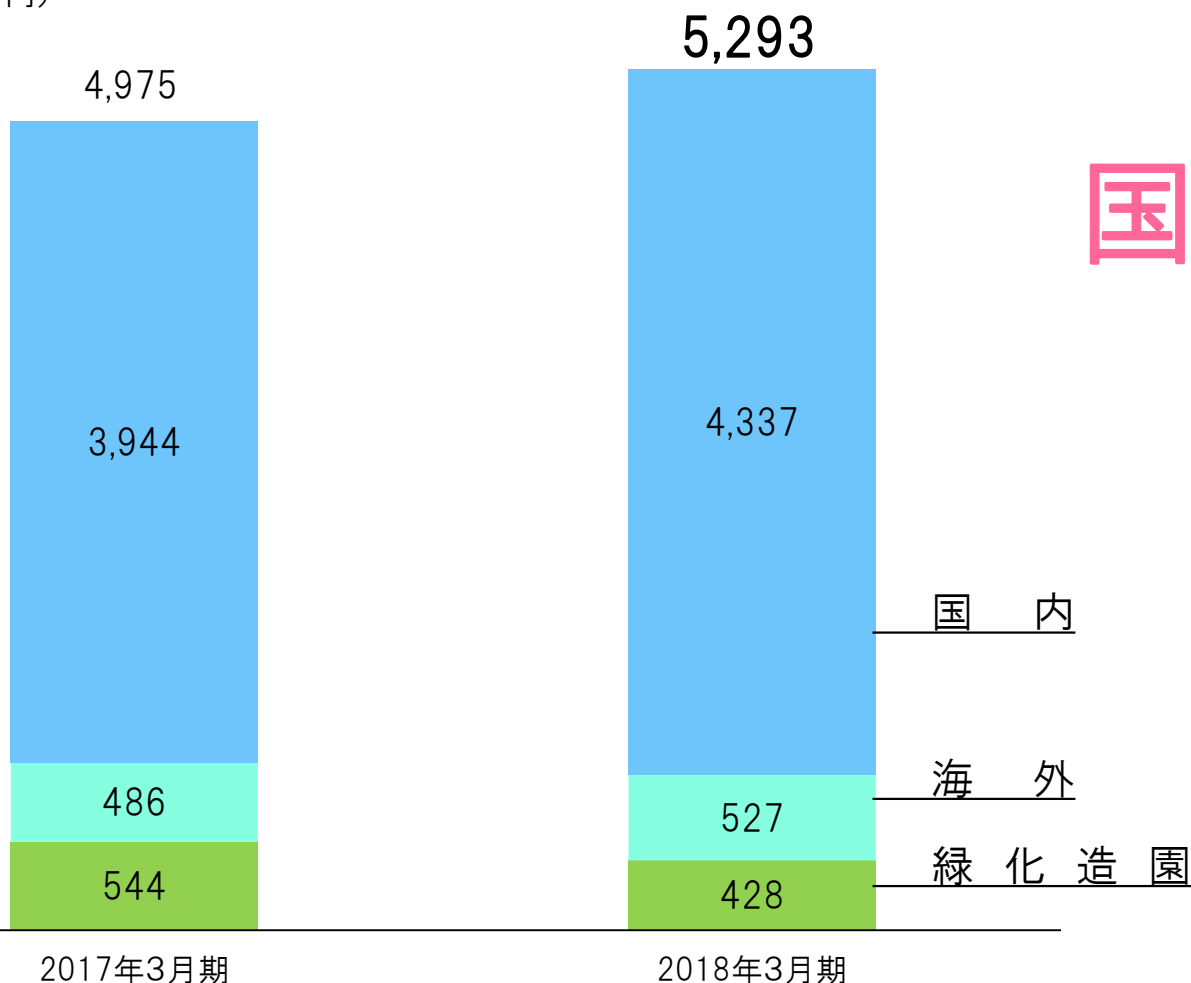
- 売上高 ⇒ 前期大口案件の反動により、前期比21.4%減。
- セグメント利益 ⇒ 減収の影響により、前期比63.5%減。

(単位:百万円)

	2017年3月期		2018年3月期			
	売上高 (セグメント利益)	構成比	売上高 (セグメント利益)	構成比	増減額	増減率
機械刃物及び機械・部品	4,431 (582)	89.1% -	4,865 (670)	91.9% -	433 (88)	↑ 9.8% ↑ (15.1%)
情報産業用	1,224	24.6%	1,442	27.2%	217	17.8%
鉄鋼用	736	14.8%	729	13.8%	△6	△0.9%
製紙パルプ用	598	12.0%	686	13.0%	87	14.7%
産業用機械及び部品	963	19.4%	1,029	19.4%	65	6.8%
その他	907	18.2%	976	18.4%	68	7.6%
緑化造園	544 (32)	10.9% -	428 (11)	8.1% -	△116 (△20)	↓ △21.4% ↓ (△63.5%)
合 計	4,975 (615)	100.0% -	5,293 (682)	100.0% -	317 (67)	6.4% 11.0%

- 国内 ⇒ 主力の情報産業用刃物が牽引し、製紙パルプ用刃物、産業用機械及び部品、その他に分類される刃物も伸長し、増収。
- 海外 ⇒ 情報産業用刃物の需要及び販売子会社の売上が増加。

(単位:百万円)

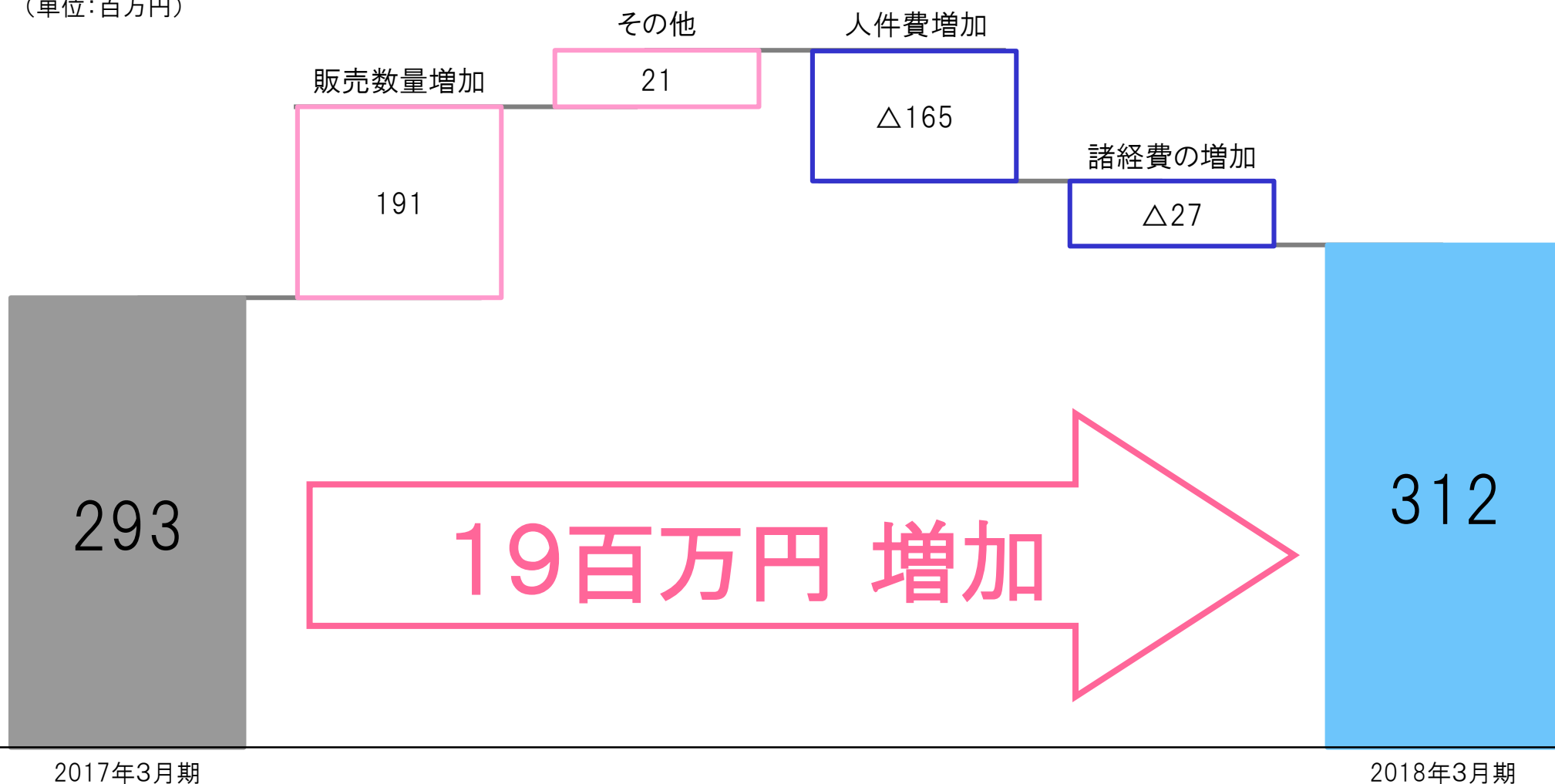


国内売上高
9.9%増

2018年3月期 営業利益増減分析

- 販売数量要因は、主力の情報産業用の増収により大きく伸長。
- 人材基盤強化のための積極的採用等により人件費が増加。

(単位:百万円)



2017年3月期

2018年3月期

- 利益剰余金が大きく増加し、純資産は前期末比14.8%増。

(単位:百万円)

	2017年3月期末	2018年3月期末	増 減 額	増 減 率
資産合計	6,314	6,717	403	6.4%
負債合計	4,789	4,967	177	3.7%
純資産合計	1,524	1,750	225	 14.8%
負債及び純資産合計	6,314	6,717	403	6.4%

- 営業活動によるキャッシュ・フローの内訳 ⇒ 税金等調整前当期純利益263百万円、売上債権の増加額296百万円等。
- 投資活動によるキャッシュ・フローの内訳 ⇒ 有形固定資産の取得による支出185百万円等。
- 財務活動によるキャッシュ・フローの内訳 ⇒ 借入金の返済による支出116百万円等。

(単位:百万円)

	2017年3月期	2018年3月期	増 減 額	増 減 率
営業活動によるキャッシュ・フロー	400	331	△69	△17.3%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34	△169	△134	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△176	△135	41	-
現金及び現金同等物の当期末残高	1,803	1,829	25	1.4%

- 設備投資額は、生産性向上を狙いCNC旋盤などの機械及び装置を中心に、199百万円。
- 研究開発費は、Laboシリーズを始めとする情報産業用刃物等で48百万円。

(単位:百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	前期比
設備投資	51	173	199	26
減価償却費	164	146	166	20
研究開発費	44	45	48	2

Laboシリーズとは、実機要らず、場所を選ばず、手軽にスリットできる小型試験機です。

2015年度



『ラボ・ベーシック』
シリーズの基本モデル

2016年度



『ラボ・オプション』
素材の巻き取り・巻き出しにより
張力をかけた切断評価が可能

2017年度

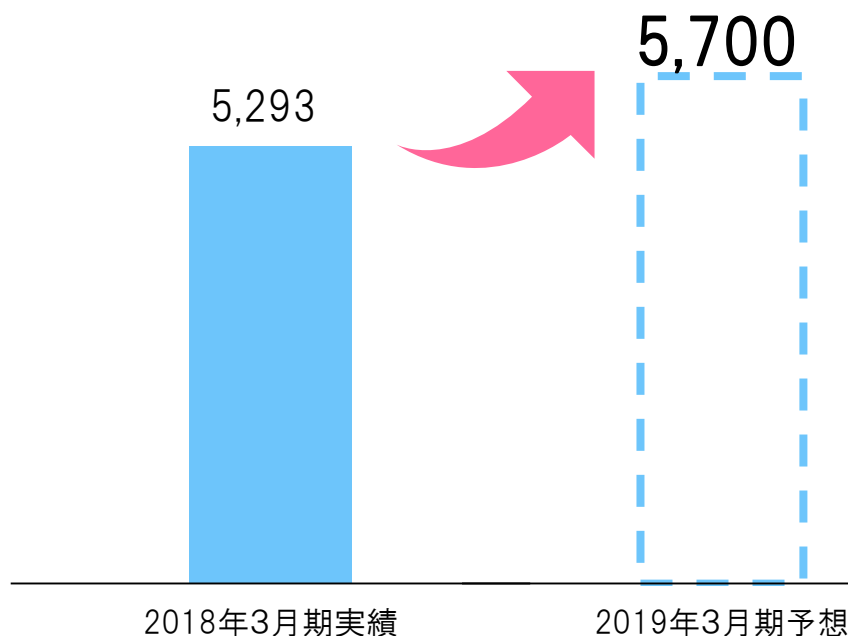


『アドヴァンス・ヘッド』
独立ヘッドタイプのシンプルモデル

2019年3月期 業績予想

(単位:百万円)

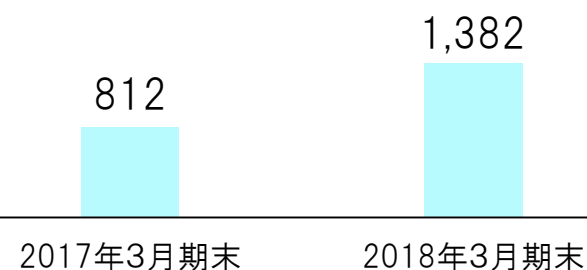
売上高



7.7%増

【参考】

受注残高(個別)



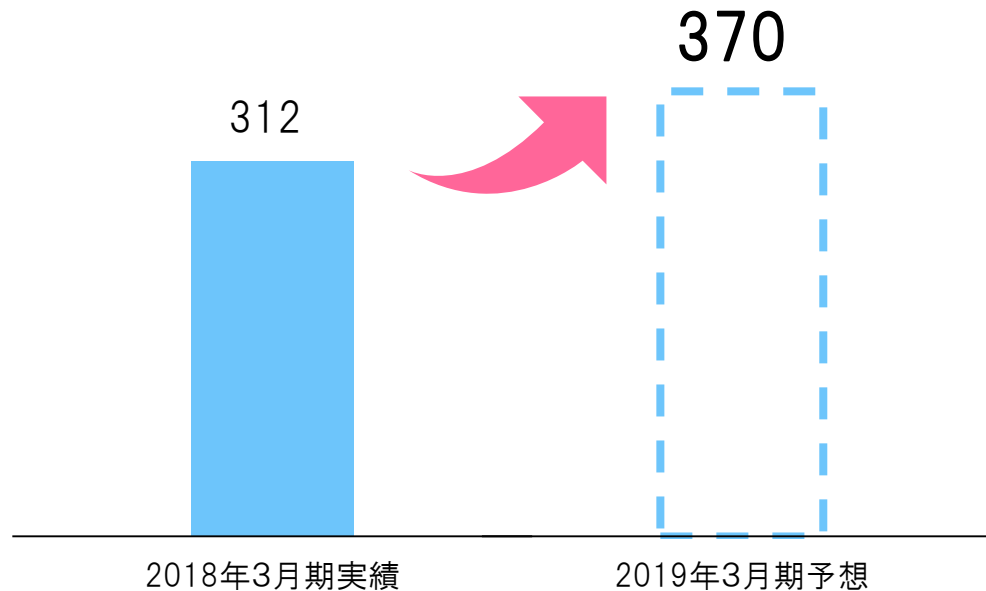
出典:平成30年3月期決算短信

用途別事業環境

- 情報産業用 ⇒ スマートフォンやタブレットを中心に、当社の強みである様々な分野で使用されている高機能フィルム、バッテリー部材向けに需要が見込まれる。
- 鉄鋼用 ⇒ 堅調な東京五輪施設関連・インフラ関連の鋼材向けに引き続き需要が見込まれる。
- 産業用機械及び部品 ⇒ 産業用機械は海外向けに需要が見込まれる。部品は好調な工作機械業界で、摺動面に使用する製品の需要が見込まれる。
- 食品・製紙パルプ用 ⇒ 食品用・ダンボール用刃物が堅調なため、需要が見込まれる。

(単位:百万円)

営業利益



18.3%増

- 業務改善の継続的取組による効率化及び、高付加価値製品への注力により増益を見込む。

中期経営計画の進捗

経営ビジョン

- さらに高品質・高付加価値品の刃物製造を目指す
- 超精密部品の加工において随一のメーカーとしての地位を確立
- 高精度精密製品の売上高構成比率を50.0%以上を目指し、継続して高める

期間

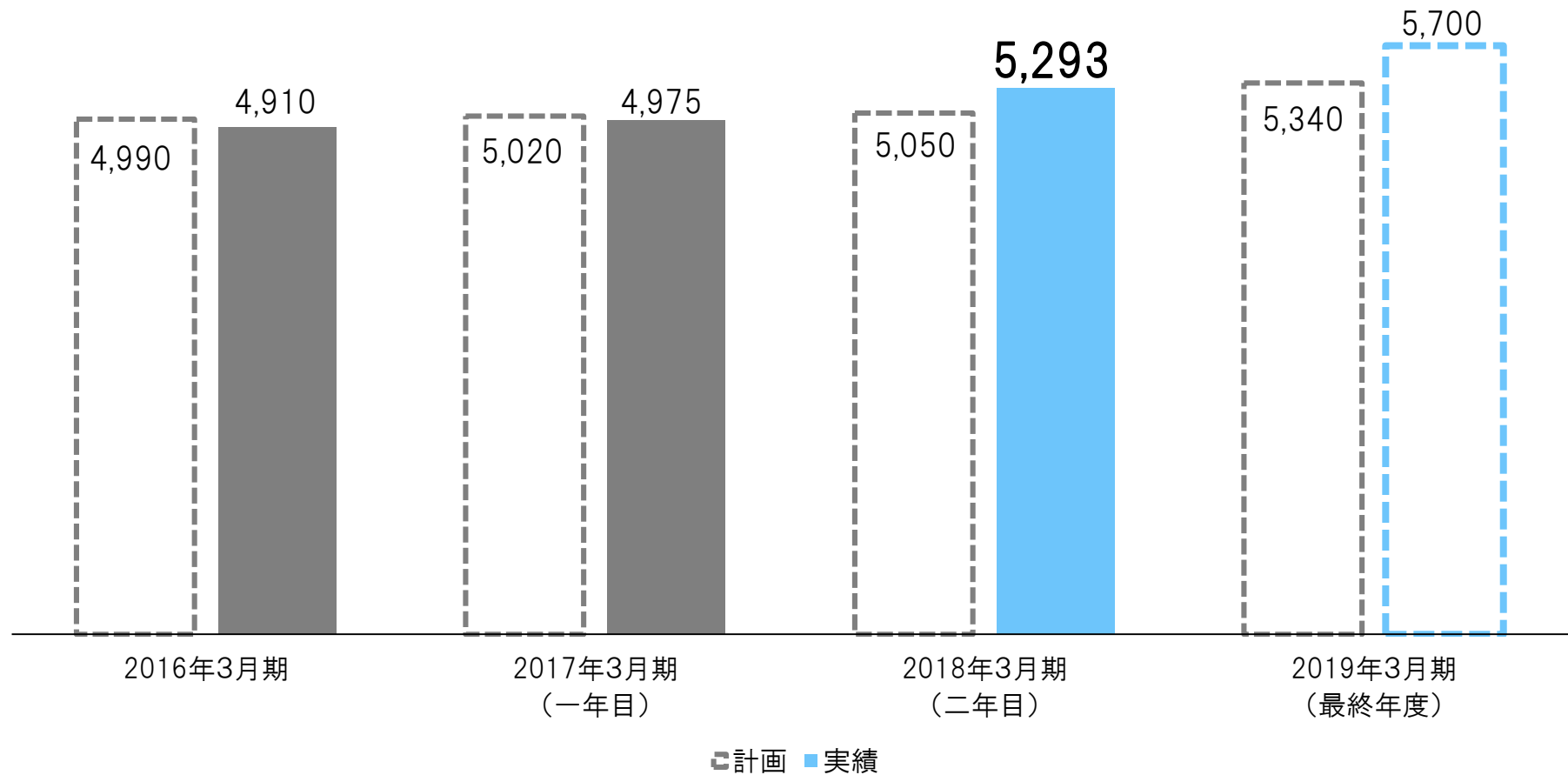
2016年4月1日から2019年3月31日まで

連結数値目標(2016年3月14日開示時点)

	2016年3月期 (計画策定時見込)	2019年3月期 (計画最終年度)
売上高	4,990百万円	5,340百万円
営業利益(率)	200百万円 (4.0%)	320百万円 (6.0%)
経常利益(率)	160百万円 (3.3%)	270百万円 (5.1%)
親会社株主に帰属する当期純利益(率)	130百万円 (2.7%)	200百万円 (3.7%)
自己資本比率	17.5%	25.0%
高精度精密製品売上高構成比率	-	50.0%以上

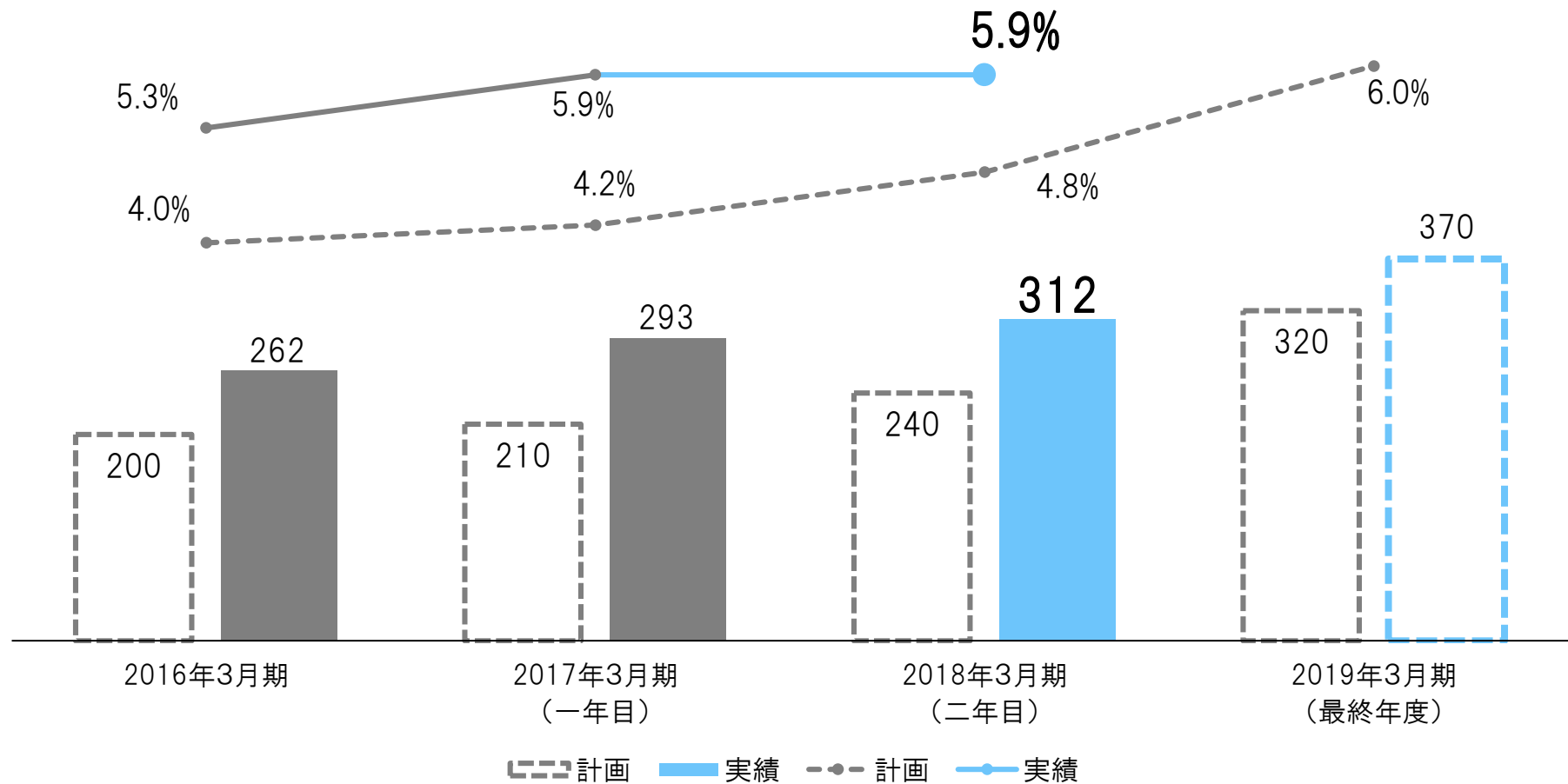
(単位:百万円)

売上高



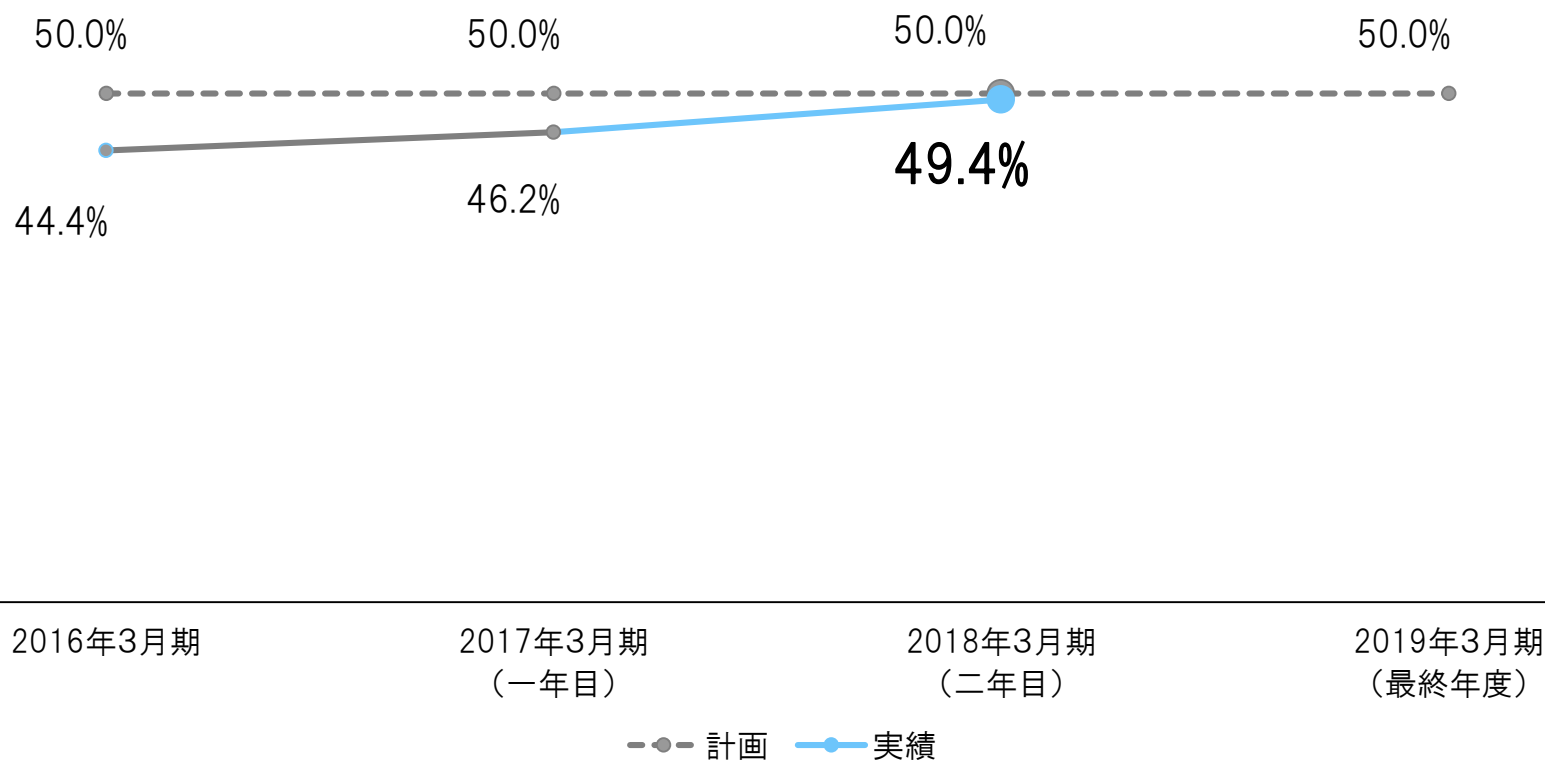
(単位:百万円)

営業利益



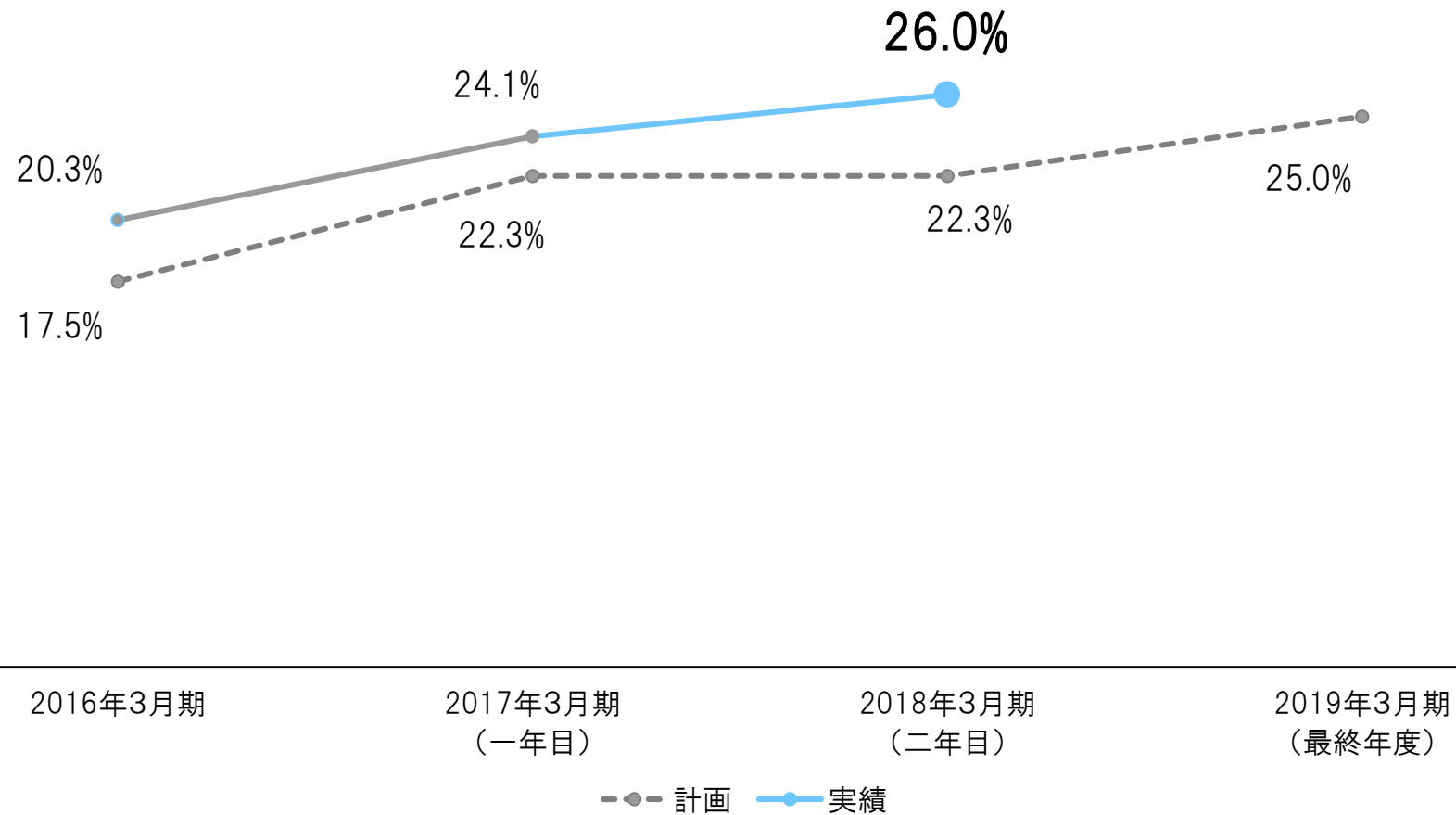
(単位: %)

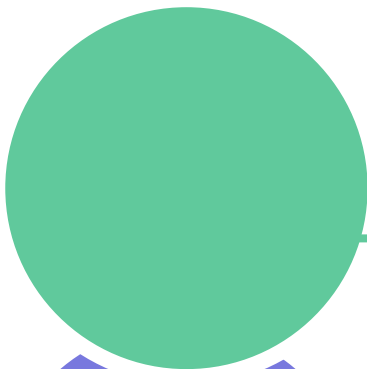
高精度精密製品売上高構成比率



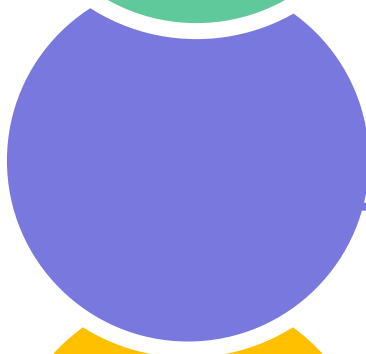
(単位: %)

自己資本比率

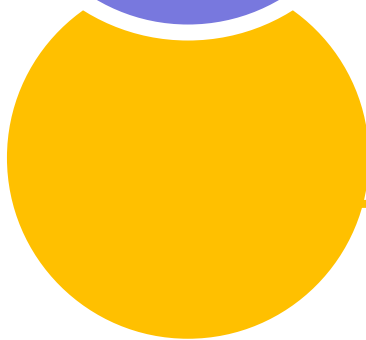




販売及び仕入の強化



短納期・少量多品種を強みとする生産体制の構築



資本政策と財務基盤の強化

販売及び仕入の強化

施策	展開状況	評価
戦略品種の拡販策の実行	⇒ 提案型営業活動の徹底により、戦略品種の受注を確保し好調に展開。	◎
新製品Laboシリーズの追加ラインナップ	⇒ Laboシリーズ5機種開発済。	◎
調達機能の見直し	⇒ 調達プロセスを見直し、調達機能のQCD向上を展開中。	○
各種展示会へ出展	⇒ 今期出展予定の3回に対し、実績は4回。	◎
自社ホームページの全面リニューアル	⇒ 製品説明の充実など、営業ツール機能を向上。	◎

◎：完了 ○：実施中 △：一部実施中

短納期・少量多品種を強みとする生産体制の構築

施策	展開状況	評価
戦略品種の製造リードタイム短縮策の展開	⇒ 一部品種については改善済。継続して展開中。	○
設備投資・内製化推進による外注費等削減策の展開	⇒ プロジェクトチームでコストダウン策の展開中。	○
東洋刃物グループでの最適な生産体制の見直し	⇒ グループ経営による生産性向上策の展開中。	○
生産管理システム構築、基準値の見直し	⇒ 新生産管理システムのベースは検討済。新基準値を展開し原価管理プロセスを強化。	○

◎：完了 ○：実施中 △：一部実施中

資本政策と財務基盤の強化

施策	展開状況	評価
繰越剰余金の損失を解消	⇒ 2017年3月期に減資により解消済。	◎
リファイナンスによる 財務基盤の安定化及び 金融費用の低減	⇒ 2017年3月期にシンジケートローン実施済。	◎
自己株式取得	⇒ 2017年3月期実施済。	◎

◎ : 完了 ○ : 実施中 △ : 一部実施中

株主還元に対する基本方針

基本方針

当社は、将来に向けた事業展開のため財務体質と経営基盤の強化を図り株主資本の充実に努めるとともに、収益動向などを総合的に勘案し業績に相応した配当を実施し、また、財務状況や株式市場などを勘案しながら適宜自己株買いを実施していく方針であります。

配当

当期の配当につきましては、事業ポートフォリオの再構築及び仕入れの強化、短納期・少量多品種を強みとする生産体制の構築、資本政策と財務基盤の強化を重点課題に取り組んだ結果、株主資本の内容が改善し、一定の配当原資を確保できることから今後の業績・事業展開等を勘案し、**1株当たり10円**の配当を実施いたします。

なお、次期の配当につきましては、継続して1株当たり10円の配当予想としております。

本件に関するお問合せは、 管理部 IR担当(022-358-8911)までお願いいたします。

本資料は証券投資に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。また、本資料には、計画、方針、経営戦略などといった、将来に関する記述があります。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく予測、計画等を基礎として作成しているものであり、不確定要素を含んでいます。従って、様々な要因の変化により、実際にはこれらの記述と異なる結果となる可能性があります。

そのため、実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。また、投資に際して生じたいかなる損失に対し当社が責任を負うものではありません。

